



203

# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年3月24日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

広島市内の住宅や学校が建ち並んでいる一角に、赤れんがの倉庫群が建っています。L字形にわたって連なり、染みついた汚れが歴史を感じさせます。1914

## 被爆の赤れんが 平和願う場に

24日(日)＝1、3面

(大正3)年に完成した旧広島陸軍被服支廠(ししょう)＝写真。兵士の服や靴などを製造、保管する施設として使われ、軍都でもあった広島での重要な施設でした。

45年8月6日、米軍が投下した原子爆弾によって、爆心地から約2.7キロ離れている赤れんが倉庫も被害を受けました。頑丈な鉄の扉は爆風で変形したほか、臨時救護所となり、ここで大勢の人々が息を引き取ったのです。

そのような歴史がある赤れんが倉庫を、平和をテーマにした絵画や芸術などを紹介する場所にできないか。連作「原爆の図」で知られる丸木位里(いり)、丸木俊(とし)夫妻の親族が行動し始めました。同じく平和を願う人々が、赤れんが倉庫に集まり、結びつき始めています。

戦後から今——。原爆の悲惨さを伝えようと力を尽くす人々の思いに迫ります。

そこが聞きたい

## 予期せぬ妊娠 女性の負担重く

24日(日)＝くらしナビ面

妊娠は男女2人による性行為の結果、起こりますが、「予期せぬ妊娠」となった場合、負担や責任は圧倒的に女性に偏っています。年2000件ほどの人工避妊中絶手術に携わり、

妊娠や中絶の相談に乗るなど当事者に寄り添ってきた産婦人科医の佐久間航さんに、この現状をどうすれば変えられるのかについて、聞きました。



日本テレビ社屋に掲げられた社旗



## 論点 「セクシー田中さん」問題 悲劇防ぐには

29日(金)＝オピニオン面

日本テレビで昨年放送された連続ドラマ「セクシー田中さん」。放送後、原作者の漫画家が「テレビ局から提示された脚本の内容が自分が伝えていたものとは異なっていた」とSNSで打ち明け、その後死亡が確認されました。この問題は波紋を広げ、日テレ

は事実関係の調査を進めています。原作とドラマの内容が異なるケースはよくあることなのですが、原作者の意向が守られるのは大前提です。今回のような悲劇を防ぐために、制作側と原作者の関係のあり方や、現状の問題点を識者3人に聞き、考えます。

特集 ワイド

## 同性婚 元最高裁判事はどう見るか

27日(水)＝夕刊2面



同性婚を認めるなら、現行の婚姻制度のコペルニクス的転回でしょう。でも実は憲法24条(婚姻の自由)は支障にならないのです——。今の婚姻制度は違憲だとする同性婚訴訟が注目されている

のは、ご承知の通りです。ところが司法の保守本流「調査官」出身のおカタい元裁判官を訪ねたら、そう言い切るから驚きました。千葉勝美元最高裁判事(77)＝写真＝が説く法理に耳を傾けました。

## 竹橋の窓辺から

編集後記

毎日新聞社がオフィシャルパートナーを務める卓球トリリーグ。22日(水)まで、年間王者を決める男女のプレイングが東京・代々木第二体育館で開かれています。会場は毎日新聞ブースではガラポン抽選会も開催します。今夏のパリ・オリンピックでも活躍が期待される卓球。毎日新聞のニュースサイトでは特集していますので、QRからぜひご覧ください。一緒に応援しましょう！(宮澤暁子)



毎日新聞